

藤無山 Snow Shoe & 大屋ゲレンデスキー



2000
12月29日～30日

メンバー

大塚賢一 45才
木倉博 38才
木倉美輝朗 4才

天候

曇り時々晴



年末に待望の雪に恵まれ早速ゲレンデスキーに足を運びました。

ゲレンデだけではすぐに飽きてしまうので、午前中はゲレンデ最後部から藤無山にスノーシューで登山、このメニューを加えて2日間雪遊びをして来ました。

29日

藤無山へのルートはやはり思っていたとおり多い箇所膝上までのラッセルで急登なところでは思うように足が上がってくれませんが、非常に疲れる。こんな時はやはり2人だけではなく4～5人いれば先頭交代でスムーズに登れるのだが・・・。



霧氷林の中へ・・・

今年2月に来たときに一度この杉林の中でリングワンダリングしてしまい少々あせったこともあったのだが、今日はじっくりと、地図・高度・磁石とにらめっこしながら確実にルートファイディングできました。途中木倉氏のスノーシューがビスが外れ故障したが、私の応急部品で難なく事を済ませました。道具に100%頼ってはいけない教訓で、いつでも補修キットは持参するのを心がけたいものです。

藤無山への山頂は少々うっとうしい所なので、2ピーク目の見晴らしの良いところでピストン、氷ノ山は三の丸の稜線にかけて真っ白で、いつでもおいでと、手招きしてい

るようでした。

下山後、2時間券(2000円)でリフト待ちゼロ、シーズン初スキーを楽しませてもらいました。

年末までは一日12時間勤務の毎日で時間が巡るましく過ぎていましたが、この冬休みは時間をゆっくりとたしなみます。

30日

昨日と同じコース設定であるが、木倉氏が息子を連れての登山である。案の定少しも登らない内に無理がたたってごねだし、ついにはピーピー泣き出すしまつで、泣けばいつでも「ガ」が通ることを小さいうちから植え付けていれば甘えた子に育つのは目に見えていますので、私が無理やり手を握っての登山となりました。側で見ている彼にとっては「もう帰らせたい」と内心思っていたことでしょう。しかしそのかいあって下山ではいつもの元気を取り戻し雪だるまになりながらも泣かずにしゃぎ回っていました。

ゲレンデでの美輝朗はリフト最上部から泣きもせず恐がりもせずに直滑降さながらおニュー板でカッ飛んでくるのには脱帽でした。

私はゲレンデでも自然の雪山を想定して悪雪ばかりを好んで滑りまわります。この日は山板を持参して滑っていたのですが、深雪にエッジを喰われ大転倒したのち、何故か



リフトが動かないうちにゲレンデを登行



バインディング破損



パパの背で泣きじゃくる



元気になった美輝朗とパパ

右のバインディングがすぐに外れるので、よく見てみると見事にクラックが入っていて修理不可能状態でした。

幸か不幸か、これが本ちゃんの山でなら致命傷になっていたでしょう。やはり6年使えば色々なところが劣化してくるものですね。陽介曰く「この山板もこのシーズンで終わりですよ!」とメンテをしてもらったときに言われたばかりであった。ツアーブーツもよ~く観察するとカカトのビブラムソールがめくれかかっているではないか!。ホントにこの6年間よく色々な山々で頑張ってくれたものだと思います。心おきなくサヨナラできます。さあ、今シーズンはすべておニューに新調だっ!(バイト代が・・・トホホホ)

悲しみがあるから 喜びがある
怒りがあるから 優しさがある
涙が出るから 元気がでる
愛があるから 恋をする
今を生きる 幸せかみしめて・・・